

第2回 国道202号国体道路の空間利活用推進協議会

■日時 令和7年9月19日 14時00分～16時00分	■出席者 ・【別紙】のとおり
--------------------------------	-------------------

議事要旨

1. 規約変更について

規約変更について承認

2. 議題における委員意見

●全体的な方向性

- ・国体道路は車の速度低下が顕著であり、事故多発、快適性が低いという現状がある中、「第1車線の使われ方」が大きな課題。歩行者と自転車の摩擦も発生しており、第1車線を有効活用するなど空間配分の見直しが必要。
- ・都心部の回遊性を支える重要な通りであり、インバウンド等の観光需要を踏まえた空間整備が必要。
- ・ニーズの項目については、具体的なイメージを示してもらったほうがよい。

●歩行者

- ・多様な目的の歩行者が利用しており、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点が必要。
- ・夜間利用が多いため、視認性など夜間の課題を整理すべき。

●自転車

- ・歩道に十分な広さがある、自転車と歩行者の通行が安全に区分できれば歩道通行が可能であるが、現況の歩道幅員、歩行者交通量では困難。基本的には、自転車は車道通行が原則。
- ・自転車の走行実態・経路データを活用し、より精緻な分析を行うことが必要。
- ・インバウンドによる自転車利用増も考慮し、マナー啓発やルール遵守が重要。

●公共交通・タクシー

- ・国体道路はバス交通量が多く、第1車線の混雑要因になっているのも事実。
- ・バス停の屋根・ベンチの設置が利用者環境改善に寄与する。歩道幅員や地権者同意の課題があるが整備を進めるべき。
- ・バスカット導入には、自家用車の進入や停車リスクがあり慎重な対応が必要。
- ・タクシーは、夜間においては唯一の公共交通手段であり、利便性確保が不可欠。
- ・公共交通利用への転換も重要。

●トラック（荷捌き）

- ・荷捌きスペース不足が渋滞要因にもつながる。
- ・専用パーキングメーターの設置検討等、物流維持のため実行性のある対策が必要。

●ソフト対策

- ・インバウンドが増えている背景を踏まえ、旅行者の歩きやすさ等への取り組みも他の事例を参考にしながら検討することが必要。
- ・長期的には、交通ルールを含めた歩行者・自転車の意識変容を促すソフト施策についても検討することが必要。

●その他

- ・道路全体のサービスレベル向上（人・自転車等・自動車）といった内容が WISENET の施策の方向性と合致する部分もあるため、次回以降規約に追加。
- ・バス、左折、タクシー、荷捌きの滞留が多いため、車線変更が多く発生している。一方で賑わいや快適性も重要な観点であることから、社会実験等により、影響を評価した方がよい。
- ・時間的・空間的な道路空間の使い分けについても、他の事例を参考にしながら検討することが必要。

●今後の予定

- ・具体的施策案を複数パターンで提示し、メリット・デメリットを整理して議論する。併せてソフト対策案についても検討を実施する。

以 上